

祝舞と絵画のセッションについて

1 祝舞「花残り月」について

【川村泉舞踊団 代表 川村泉氏 コメント】

式典に向けての新作を創るにあたり、共有するワードとして「新展開への挑戦と伝統の重さ、自然への畏敬」等であったと記憶しております。

初めは縄文をテーマに動きのモチーフを創りました。古から今に至るもの、そして次へ…と模索するうちに、「花残り月」という言葉に出会いました。

「多くの偶然の中で生き、それが必然であると受容し、無常の日々を巡る」10分間の作品の中に、そのようなテーマの片鱗があれば…とリハーサルを重ねています。

坂本龍一さんの最後のアルバム、2月の配信初日、グラス音や風の流れのような音が心に留まり、この作品の音楽の中に使わせていただいております。その後、間もなく旅立たれ、追悼番組などで今回講演をなさるピーター・バラカン氏が深いかわりある方だと知りました。ご縁を感じながらの上演になります。

【花残り月（初演）】

- ・春 川村真奈 若羽幸平
- ・夏 伊藤有美 水島晃太郎
- ・冬 岸野奈央 有明歩 木元真理子
- ・夏から秋そして巡礼

宇佐美恵子 伊藤いづみ 大塚仁美 石井晴美 有明明子
宮澤友美 佐藤智子 二渡忍 佐藤水蘭 大塚果歩 櫻井七織
高橋ケイ 田川千寛 奥山詩織 田村安佳里



ミルハス柿落とし公演「威風堂々」より一場面

©スタッフテス

【川村泉氏プロフィール】

川村泉は母、藤井信子に学び、以後、横井茂、金井英三枝、北井一郎に師事

1986年 現代舞踊協会制定新人賞

1987年 文化庁派遣芸術家在外研修員ドイツでピナ・バウシュ、ジョン・セブロンに学ぶ。

1998年 現代舞踊フェスティバル優秀賞 東京新聞全国コンクール指導者大賞

1999年 ウィーン公演

2001年 文化庁特別派遣 NY に留学

2019年 秋田市文化章 受章

2022年 ミルハス柿落とし記念公演出演

舞踊団からは文化庁派遣芸術家在外研修員及び全国舞踊コンクール第1位受賞者を多数輩出している。



(一社) 現代舞踊協会東北支部支部長、東京新聞社全国舞踊コンクール審査員、あきた全国舞踊祭実行委員長

2 絵画「彼方から」について

【制作者 尾花賢一助教のコメント（作品コンセプト）】

今回の作品は舞台上で舞踊と絵画が交差していきますが、” 主役” と” 背景” という関係性ではありません。通常であれば舞踊に対して絵画が舞台セットのような役割を担いますが、今回の制作ではギリギリまで互いの作品について「語り合わない」ことを意識しています。異なる存在が同じ場所で対峙する時、私たちは分かりあうことを目指してしまいます。言葉や文化、考え方。全てが同じであることは理想的であるかもしれませんが、それが時には苦しい時もあるかもしれません。

異なるものが異なるままでいられる。

混ざり合わないけれど、共にいることが窮屈ではないような。

そんな瞬間を舞台上に作り出していきたいと考えています。

【制作者プロフィール】

1981年群馬県生まれ。秋田県を拠点に活動。秋田公立美術大学美術学部ビジュアルアート専攻の助教を務めている。

人々の営みや、伝承、土地の風景や歴史から生成したドローイングや彫刻を制

作。虚構と現実を往来しながら物語を体感していく作品を探求している。

近年の主な展示に「国際芸術祭あいち 2022」(2022 年、常滑市)、「みちのおくの芸術祭山形ビエンナーレ」文翔館(2021 年、山形市)、「瀬戸内国際芸術祭 2022」(2022 年、多度津町)「VOCA 2021」上野の森美術館(2021 年、東京)、「表現の生態系」アーツ前橋(2019 年、前橋)など。また、「VOCA 2021」では VOCA 賞(大賞)を受賞した。